

コーディネーターを支えるミドルリーダーの役割

—工業高校におけるスクールソーシャルワーカーを活かした実践—

阿津坂 理沙¹

¹ (大阪市立泉尾工業高等学校)

家近 早苗²

² (大阪教育大学大学院連合教職実践研究科)

【問題と目的】 現在日本の高等学校において、工業高等学校（以下、工業高校と略記）など専門学科系の高校は、普通科系の高校よりも中途退学率が高い状況がある（文科省，2020）。このような状況に対応するために、学校心理学（石隈，1999）で示されている校内の援助資源をつなげた適切な援助サービスを行う必要があると考えられる。そのためミドルリーダーには、学校にある人的資源や物的資源、組織的援助資源を発見し、教師と専門スタッフの人的資源をつなぎ、協働を生み出すことが求められる。そこで本研究の目的は、スクールソーシャルワーカー（以下、SSW）と教師が共に行うチーム援助において、コーディネーターおよびミドルリーダーの役割を検討することである。なお本研究の発表にあたっては校長の許可を得ている。第1発表者の立場は、特別支援教育チームのメンバー、進路指導主事であり、第2発表者は会議進行へのアドバイスをする。

【方法】 期間：2020年4月～2020年7月
対象：A工業高校のコーディネーター（以下、Coとする）の教師3名、SSW、発表者。A工業高校で開催した第1回から第6回のコーディネーター会議（以下、Co会議とする）。

分析の方法：Coの教師3名、SSW、発表者の5名でCo会議を開催し、その内容を記述する。記述した内容からCoとミドルリーダーの役割を明確にするとともに、生徒に対する具体的な実践について検討する。

【結果】 週に1回Coの教師3名とSSWと発表者が参加する新たなCo会議を6回開催した。その会議の中で以下の内容が話し合われた（表1）。

6回のコーディネーター会議の内容について検討した結果、Coの教師3名の役割は、①Co会議の司会、②学級担任との連携、③管理職との調整、④学級担任、Co、SSW、司法機関とのケース会議の開催、⑤人権委員会のメンバーとして生徒や学級担任との面談の実施、⑥生徒の希望の聞き取りの6点であった。また発表者のミドルリーダーとしての役割は、①TTの授業での丁寧な学習支援、②SSWからの報告と相談、③iPadの翻訳機能を利用した学習支援、④管理職への提案、⑤人権委員会での検討をCoへ依頼、⑥他教科との調整の6点であった。

表1 コーディネーター会議で話し合われた内容

回	話し合われた内容
第1回	会議の開催日時確認、Co、SSWの紹介
第2回	個別の支援計画作成、日本語指導が必要な生徒の援助策についての検討
第3回	チームの目標の策定、校内職員研修
第4回	校内研修の日程決定、教科を担当する教師との会議の設定、家庭環境に問題がある生徒への援助についての検討
第5回	SSWによる校内研修の内容検討
第6回	チームの目標の確認、校内研修の役割分担、SSWの専門性について

【考察】 SSWとCoの教師が協働することで、特定の生徒への三次的援助サービスの実践につながったと考えられる。さらに、校内の他の生徒の援助につなげ、それぞれの教師やSSWの強みや役割を活かすことが非常に重要である。

*本研究は大阪教育大学大学院連合教職実践研究科における実践研究をもとにしている。